

項目	観点	教科書名	
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	<p>○生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、どのように配慮されているか。</p>	<p>中学音楽 音楽のおくりもの(17・教出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に、音楽の専門家(ピアニスト、笙奏者、指揮、それぞれの学年の楽曲の作曲家)のメッセージや紹介があり、音楽の世界に引き込まれる。 ・1年生で音楽制作アプリの紹介がされており、創作の世界がより身近に感じられる。2・3上では音楽著作権について、2・3下ではコンピュータと音楽について掲載されており、生活や社会の中の音楽について考えを深める内容となっている。 ・「Sing!Sing!」では、1年で変声と混声合唱について、2・3上で歌う前のストレッチについて掲載されている。1年の変声と合わせて混声合唱のパートについてや、へ音譜表について説明されており、関連付けて理解しやすい。 ・「日本の歌 みんなの歌」の資料が充実しており、歌い継がれてきた音楽のよさや歴史に触れることができる。 ・写真や資料が豊富で、音楽に興味をもつきっかけとなる。 ・鑑賞のページでは作曲家の年代が統一された表記となっており、見比べながら確認できる。我が国の伝統的な音楽については、平安や江戸など時代が表記されており、他教科との関連を図りながら学習できる。 ・SDGsとの関連が示されており、関わりが気付くことができる。 ・発達段階に応じて全校合唱ができるように工夫されている。(1年は同声2部、2・3上は混声3部、2・3下は混声4部) ・2・3下の「日本と西洋の音楽の歩み」では、日本と西洋を比較しながら見られるようになっている。時代背景や、当時の音楽の特徴が説明されている。それとは別に巻末に「肖像で見る音楽年表」があり、日本と西洋の作曲家の肖像画や写真が、1つの年表に合わせて載っている。 ・巻末の「君が代」のページには、それぞれスポーツの国際試合で選手が歌う様子や全国各地の細石、歌詞の大意が掲載されている。 	<p>中学生の音楽(27・教芸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に、さまざまな分野で活躍する人(ミュージカル俳優、宇宙飛行士、歌舞伎役者、人類進化学者、ピアニスト、アートディレクター)の言葉や紹介があり、音楽の世界が広がる。音楽が生活のあらゆる場面で関わっていることに気付く。 ・1年生の鑑賞で始めに映画音楽を扱っており、音楽をより身近に感じて学習することができる。 ・全学年で生活や社会の中の音や音楽について扱っており、日常生活と音や音楽との密接な関わりが分かる。 ・「My Voice!」では全学年通して姿勢や呼吸、発声について掲載されており、大切なことをくり返し確認できるようにしている。1年生では、声の出る仕組みや変声期についての説明が丁寧である。変声期に心がけることも載っており、生徒に寄り添った内容になっている。 ・「心の歌」では歌詞の背景に写真が大きく載っており、楽曲の雰囲気や伝わってくる。 ・鑑賞の作曲家の年代が日本の時代や主な出来事と合わせて載っており、教科横断的な学習に生かすことができる。 ・1年生で「日本音楽入門」として、日本古来の芸能や雅楽、能楽、近世邦楽について歴史的な背景や特徴が見開き1ページにまとめられており、我が国の伝統音楽の学習の入門として、大変分かりやすい。 ・合唱曲ではQRコードからカラピアノの音源を開けるようになっており、生徒の主体的な学びのサポートとなる。 ・2・3下の「耳でたどる音楽史」では、日本と西洋を並べ、比較しながら見られるようになっている。音楽に関わる絵画や美術品の写真もあり、さまざまな視点から音楽史に触れることができる。 ・巻末の「君が代」では、スポーツの国際大会の写真と合わせて、国旗と国際的儀礼にも触れている。
2 内容の程度及び取扱いについて	<p>○音楽的な見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習MAPで、歌唱、鑑賞、創作についてそれぞれの題材、曲の系統や関連が示されており、学習の全体的な流れが分かりやすく示されている。 ・音楽を形づくっている要素について、歌唱、鑑賞、創作について学習の仕方が段階的に整理されており、分かりやすい。 ・音楽を形づくっている要素について、それらのはたらきについて学年ごとに扱っており、理解を深められる。 ・楽曲名の下に学習の目標が示されている。 ・「比べてみよう」を活用すると、題材間のつながりが分かるように工夫されている。 ・各学年に設定されている書き込み式の「Active!」が分かりやすい。主体的・対話的で深い学びを目指す活動が設定されており、ポイントを絞った学習に活用できる。 ・創作では「活動」の見出しを参考にして書き込みながら学習を進め、創作ができるように作られている。QRコードの音源も試行錯誤しながら創作する上で有効的である。主体的な学習を促す工夫が見られる。 ・楽曲の中でおさえたい用語や記号が分かるようになっており、リンクするページが掲載されている。 ・鑑賞の資料や説明文が多く、活用すると理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱、鑑賞、創作の思考力・判断力・表現力、知識、技能と曲名が一覧になっており、年間を通して何を学習するのか、どんなことを目指すのかが生徒にとって分かりやすく示されている。 ・教材ごとに音楽を形づくっている要素が示されており、学習のポイントが分かりやすい。教材間・題材間のつながりや関わりも指導しやすい。 ・楽曲名の下に学習目標が示されている。また、考えたいポイントが問いかけの形で記述されており、生徒が課題意識をもって学習できるように工夫されている。 ・音楽を形づくっている要素についての資料・説明が、学年で学習する内容とリンクしており、分かりやすい。 ・楽曲の中でおさえたい用語や記号が分かるようになっており、リンクするページが掲載されている。 ・「学びのコンパス」が歌唱、創作、鑑賞それぞれに配置され、知覚・感受したことや音楽的な特徴を関連付けて理解できるようにしている。 ・創作の題材が歌唱や鑑賞の題材とリンクして配置されており、音楽的な見方や考え方が深められるようになっている。題材間の学びの連続性をつかみやすい。 ・日本音楽に関する言葉や音階が1ページにまとめられており、分かりやすい。(1年、2・3上) ・各学年での「音楽の学びを振り返ろう」では、1年間(3年間)の音楽の授業を振り返って、みんなに薦めたい1曲をプレゼンするつくりとなっている。ポイントとして音楽を形づくっている要素があげられており、音楽的な見方や考え方を深められるようになっている。アウトプットの場の設定としても有効的である。
3 内容の配列・分量	<p>○題材の構成や教材の配列には、どのような特色があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校の9年間を通して、全学年の系統性に基づいて組織された題材を軸に、各題材内の教材は、教材性を生かして設定されている。基礎的・基本的な知識の習得から発展的な内容の習得へとつながるように、無理のない分量で配列されている。 ・主に取り扱う教材と関連教材の組み合わせにより、学校の実態やカリキュラムに応じた柔軟な対応ができるよう配慮されている。 ・どの学年も、目次の次に「学習MAP」があり、領域・分野ごとに題材がどのように配列され、どのようにつながっているかが見開きでわかるようになっている。 ・音楽を形づくっている要素について、学年に応じた教材・楽曲と関連付けて考えられるように、全学年に「どんな特徴があるかな」のコーナーとして配置されている。 ・各題材・教材の中に「比べてみよう」のコーナーが配置されており、曲想の違いや曲の情景など、既習曲を含む複数の楽曲を比較することにより、学習を深められるようになっている。 ・歌うためのワンポイントアドバイス「Sing!Sing!」は、全学年歌唱教材と関連付けて配置されている。基礎・基本を身に付けるためのポイントとなっていることから、1年生に多く配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている各学年の目標及び内容を踏まえて、全学年を通して系統的・発展的に教材が組織されており、小学校における学習状況や各学年の発達段階に応じた無理のない配列になっている。 ・ねらいに即した学習内容や関連教材が組織されており、その組み合わせによって、教材における学習活動の分量を弾力的に増減できるよう配慮されている。 ・目次の次に「学びの地図」として各学年の学習内容と教材の配列が図示されており、「資質・能力の三つの柱」との関連もわかるようになっている。 ・どの学年も「音楽を形づくっている要素」のページが巻末に配置してあり、学年に応じた教材・楽曲との関連がわかるようにまとめられている。 ・歌唱で7教材、鑑賞で7教材の「学びのコンパス」が配置されており、教科書の手順にそって学習を進めることで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動が展開できるようになっている。 ・巻頭「学びの地図」で学習の見通しをもち、巻末「音楽の学びを振り返ろう」で自分の学びを振り返ることで、生徒が主体的に学びに向かい、学習を深めることができる配置になっている。 ・創作においては、「リズムゲーム」「リズムアンサンブル」「リズムチャレンジ」「My Melody」「Let's Create」の5つの活動が各学年の発達段階に応じて、3年間で系統的に行われるよう配置されている。
4 表記・体裁・資料	<p>○楽譜や写真などの表記、表現、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなど使用上の便宜については、どのような工夫が見られるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や文字は適切な大きさと、読みやすく配置されている。挿絵や写真と文字が重なるところも、文字が読みやすいよう配慮されている。ユニバーサルデザインフォントが使用されており、誰もが読みやすいものになるよう配慮されている。 ・歌唱は赤、創作は緑、鑑賞は青と色分けされたインデックスに、題材名が明示されており、視覚的にわかりやすくなっている。 ・紙のマットな質感は目に優しく、手触りも良い。巻頭や巻末の資料ページは発色が良く丈夫な紙を使用しており、何度も見返して使用しても、破損しにくいよう配慮されている。 ・全学年の共通教材で、作曲家や作詞者のページが楽譜とは別に独立して掲載されている。写真などの資料も豊富で、楽曲の背景が理解しやすいように工夫されている。 ・全学年において、リコーダーの運指表やギターコードなどのページがあり、器楽との関連付けがしやすい工夫がされている。 ・学習に役立つコンテンツを見ることができるQRコードが掲載され、「まなびリンク」の印が付いている教材では、楽曲の模範演奏やプロの演奏家による演奏動画や音声、ワークシート、資料などが活用できるようになっている。 ・巻頭に「With My Heart 音楽はメッセージ」というタイトルで、現在活躍する音楽家からのメッセージが掲載されており、生徒の音楽への興味・関心を高める工夫がされている。 ・西洋音楽だけでなく、特にアジアの音楽に関する写真資料などが豊富で、様々な音楽への興味・関心を高める工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や文章、資料写真などは適切な大きさと配置されている。楽譜の中の歌詞も含めて、文字の多くにユニバーサルデザインフォントが使用されており、誰もが読みやすいものになるよう配慮されている。 ・イラストはシンプルで柔らかな色調のものが多く、楽譜や文章など学習に必要な情報に注目できるようになっている。表紙を含めた人物のイラストも、外国にルーツを持つ生徒やパンツスタイルの制服を着用する女子生徒が自然に描かれており、多様性への配慮が見られる。 ・歌唱は緑、創作は青、鑑賞は赤と色分けされたインデックスに、それぞれの領域を表すマークと学習目標、音楽を形づくっている要素のキーワードなどが記入されており、視覚的にわかりやすいデザインになっている。 ・各教材にQRコードを掲載し、楽曲に関する動画や歌唱教材のピアノ伴奏、合唱のパート別音源などの情報を視聴することができるよう工夫されている。さらに「学びのコンパス」のQRコードからはワークシート、創作のページからは創作ツールがダウンロードでき、生徒の実態に応じて主体的に学習できる手立てとなっている。 ・巻頭には、現在活躍する音楽家の言葉とともに、音楽以外の分野で活躍する専門家からのメッセージが記載されている「音楽ってなんだろう?」のページがあり、生徒がより幅広い価値観に触れることができる工夫がされている。 ・中学生が地域の人と共に祭りや芸能に携わる写真を掲載し、生徒が日本の伝統的な音楽への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ・歌唱の共通教材や日本の伝統音楽のページの写真資料が美しく、数も豊富である。